

令和5年度 佐世保市地方卸売市場運営協議会 議事概要

1. 開催日時：令和6年2月16日（金） 13：30～15：00
2. 開催場所：花き市場2階会議室
3. 出席者
 - ・佐世保市地方卸売市場運営協議会委員13名（委員総数17名）
 - ・佐世保市 高増農林水産部部長他5名
 - ・傍聴者1名
4. 議 題
 - （1）佐世保市地方卸売市場の取扱実績推移と現況について
 - （2）佐世保市地方卸売市場のあり方について
 - （3）質疑事項その他
5. 協議会内容

議 題

- （1）佐世保市地方卸売市場の取扱実績推移と現況について

【事務局】

- ・卸売市場の概要、H24～R4の市場取扱実績について説明。
- ・取扱量は減少傾向、取扱高も10年ほど横ばいの状態であったが、令和元年から新型コロナウイルス感染拡大による影響でさらに減少、特に水産市場が気候変動による不漁の影響も相まって大きく影響を受けた。
- ・令和4年からは徐々に回復しつつも、コロナ前の状況までは戻っていない。
- ・令和4年度実績、青果市場、花き市場は取扱数量減、金額横ばい。
- ・水産市場は取扱数量、金額共に前年度より増加。令和5年度も増加傾向継続。
- ・食肉市場は豚の頭数減の影響で、取扱数量、金額共に前年よりも減少。

【卸売市場代表委員】

- ・各卸売市場の現況について、卸売市場代表委員から説明をお願いした。

【青果花き市場 山本委員】

- ・令和5年度実績、1月末時点で青果・果実共に前年比で数量減、単価高で金額増。
- ・花きは数量減、単価安で金額も減で厳しい状況。
- ・果実は年々単価が上昇している。生産農家の減少に伴い生産量も減少、品薄感

から相場が上がっている。

- ・ 野菜、果実共に生産量は減少傾向にあり、入荷量も減。生産者の高齢化と、物価高騰による生産意欲の低下も要因と思われる。
- ・ 2024年問題により、集荷機能の低下、販売力の低下が懸念される。

【水産市場 松尾委員】

- ・ 令和5年度実績、12月末時点で前年比、取扱数量、金額共に増。
- ・ コロナ5類移行後、需要回復、相場は堅調に推移。1月以降も増加傾向は続いており、令和5年度は最終的に前年度を上回る実績が見込まれる。
- ・ イワシが40年ぶりの豊漁、サバの水揚げも安定、単価も安定している。
- ・ 人員の減、従事者の高齢化等により、魚の選別作業性の低下、2024年問題による運送費の増、運送遅延による相場の低下等が課題。

【食肉市場 落合委員】

- ・ 令和5年度実績、1月末時点で計画比、牛は頭数増。
- ・ 生産者の廃業により、豚は頭数減。
- ・ 来年度にかけて、豚の集荷対策事業を行っていく。
- ・ 牛も新規出荷先の開拓等を行い、牛豚共に集荷基盤維持、強化を図る。
- ・ 牛豚全体での3月末見通しは、計画よりも頭数増の見込み。

(委員からの質疑なし)

(2) 佐世保市地方卸売市場のあり方について

【事務局】

- ・ 卸売市場の今後のあり方を考えるにあたって、卸売市場を取り巻く環境について、関係するデータを基に説明。
- ・ 人口の推移について、人口減少が見込まれる今後、生鮮食料品、花きの需要減が懸念される。
- ・ 卸売市場経由率は、大手量販店や加工メーカーによる生産者との直接取引の増加等により、年々減少を続けているが、流通の半分は市場を経由しており、流通インフラとしての卸売市場の重要性に変わりはない。
- ・ 出荷者の状況について、どの業種も生産者が減少傾向にあり、国内生産量は減少を続けている。花きは輸入量が年々増加している。
- ・ 消費者の動向は、国民一人当たりの消費量が野菜・果実・魚介類が減少傾向。食肉は消費量が上昇してきたが近年横ばいの状態。花きの世帯当たり購入量は、新型コロナによるイベントの自粛等の影響もあり、年々減少している。

- ・ 販売元の状況について、佐世保市地方卸売市場の売買参加者・買受人は年々減少している。市内の小売店も減少を続けている。
 - ・ 物流の状況について、売上高に占める物流コストは年々上昇し続け、近年は5%を超えている。2024年問題で更なるコスト増加、輸送の遅れによる鮮度低下が懸念される。
 - ・ 以上の取り巻く環境をふまえ、卸売市場の課題にどう対応していくかを考える。
 - ・ 佐世保市地方卸売市場は、生産者が安心して出荷できる場所で、生産者と消費者をつなぐ流通拠点であり、社会インフラとして公益性のある役割を今後も担い続けていくと考えられ、卸売市場を安定して継続して運営していくことが重要である。
 - ・ 取扱数量の取扱高の減少に関しては市場活性化対策・集荷強化の取り組み、施設の老朽化に関しては計画的な施設保全・整備による長寿命化、将来的には建て替えの検討を行っていく。
 - ・ これまでも中央市場から地方市場への転換、指定管理者制度の導入等を行ってきた。当面は指定管理者による管理運営の形態を継続する方針である。
 - ・ 目標耐用年数を迎え、建て替えを検討する場合は、PFI等の民間資金活用の方法が有効かどうかの検討も求められていくのではないかと。
 - ・ 卸売市場の運営形態について、収入の減少に伴い、採算性を考慮した運営形態を検討するにあたって、民設民営等も選択肢になりえるが、卸売市場の安定稼働を重要視しながら、状況に応じた見直しを行っていく。
 - ・ 見直しにあたっては、市場関係団体の意見、運営協議会での協議をふまえ、時間をかけ、早めの検討が必要である。
- ・ 市場を取り巻く環境、市場のあり方について、出席委員全員に意見を求めた。

【委員からの意見】

- ・ 適正価格で消費者に食品を供給する公共インフラとして、佐世保市地方卸売市場は公設のままが良い。
- ・ 人口減少で国内需要減、円安で、輸出の取組みも必要になってくるのでは。
- ・ 魚が大量に揚がっても、選別する作業員の減少で対応できていない。
- ・ 魚を貯蔵する冷蔵庫が不足している。水産加工団地への冷蔵庫業者誘致により市場が活性化するのでは。
- ・ 今後、施設を建て替えるための土地を早めに確保する必要があるのでは。
- ・ 人員不足が課題。外国人技能実習生でなく、学生の新卒を採用したいが、人件費の上昇もあり、難しい部分もある。
- ・ 市場を取り巻く環境が非常に良くないということを理解した。高齢化や物価の高騰、人件費の上昇などが日々の不安材料である。
- ・ 高齢化が進み、備品を修繕する費用も高価で若い人が跡を継がない。量販店に押され個人の店舗は成り立っていかない。組合も続いていかない。

- ・ 新規で個人店舗を開くにあたっての行政の指導、補助などあれば助かる。
- ・ 市場の購買者がどんどん減っている。市場価格が上がり、買えなくなっている。
- ・ 小売業者がいなくなってしまう。後継者づくりが重要。
- ・ 高齢化が進み、とにかく現状維持を頑張っていくしかないという方が多い。
- ・ 人員不足で魚の荷揚げに時間がかかり、鮮度が落ち価格も安くなってしまう。冷凍設備の充実や人員の増が近々の課題。
- ・ 昔は活気があったが、廃業が続き業者は減り、厳しい状況。お互いが助け合って、合併や個々にアイデアを出し合い、仕事ができるよう、生活ができるようにやっていかないといけない。
- ・ 船が大型化し、漁獲量が増え、水揚げの人手が足りていない。施設の修繕等も大事だが、人手の確保が一番の課題。
- ・ ネット販売や直売所には、珍しい食材がある。地元の特徴ある野菜や魚等をアピールしてほしい。
- ・ 少子高齢化、物価高騰、2024年問題等は市場だけでなく全業種に係る課題。食に関しては、地域密着型の地産地消の推進が一番。佐世保の産品が消費者に届くよう、積極的なPRが必要と考える。
- ・ 学生が県内企業の情報を持たないという事もある。人材確保のために学生への情報提供も必要と考える。
- ・ コスト削減等のため民間のノウハウを活用することは考えられるが、インフラである卸売市場を必ずしも民営化することが全てではない。
- ・ 魚や肉、果物の海外への販売など、産官学で取り組むことで打開策が見いだせるかもしれない。

(3) 質疑事項その他

【事務局】

- ・ 水産市場背後地に整備した水産加工団地の売却について、当日配布した現況平面図により説明。
- ・ 水産市場の活性化を目的として、水産物関連事業者へ向けて売却する方針であり、現在は水産加工、冷蔵冷凍庫業者を対象とし、先着順で受付を行っている。
- ・ 水産加工業者へ電話営業を行っており、今後冷蔵冷凍庫業者へ営業をかけるが、水産物だけでなく、野菜や食肉等も扱っている事業者がほとんどであり、水産市場だけでなく、青果・食肉市場にもいい影響がある可能性も。
- ・ 関連する業者がいれば情報提供や紹介などお願いしたい。

(委員からの質疑なし)

6. 閉 会

以 上